

知恵の樹

growing in OZUKA

広島市立大学
附属図書館報

第58号 2013年7月

市大生が考える戦争と平和
～今知りたい 世界のこと～

—— 1～4

いちだい知のトライアスロン

イベント報告 & 関連事業報告

—— 4～5

わたしの一冊 / LOOK HERE!

6

市大生が考える 戦争と平和

～今知りたい 世界のこと～

ジリジリと暑い夏がやってきました。

「戦争」「平和」という言葉にもよく触れる季節です。

今特集では、新設の平和研コーナーと広島平和研究所の先生方によるお薦めの一冊をご紹介します。

戦争と平和について、世界について、改めて考えてみませんか。



広島平和研究所長 吉川元教授

『危機の二十年：理想と現実』

E. H. カー著；原彬久訳 岩波書店 2011年 【319カ】

本書は、今では誰もが疑わない価値である「国際平和」「国際主義」「集団安全保障」といった国際政治の用語の起源と実際の使用法を考察する上で、よいきっかけとなる本である。こうした用語は、実際の国際政治の場では、大国有利の国際秩序維持に向けられたスローガンであることが見事に分析されている。国際政治の世界では、国際関係の規則および国際行動規範を基にして国際秩序が確立されて国際平和が維持されるものである。平和に挑戦する国は邪悪な国である。それでは、いったい誰がどのようにして規則と秩序を確立するのか。たいていの場合、一群の大国によって国際関係の規則や秩序を創られる。大国が一致して、自分たちに有利な規則と国際秩序を創り、そして秩序維持のために「平和」を呼びかけるとともに、邪悪な国家に対しては一致して「集団的安全保障」を唱える。本書が刊行されたのは第二次世界大戦前夜の1938年のことであるが、こうした国際政治の基本的構図は、今も変わらない。国際政治学の不朽の名著の一冊である。



人類と「核」の遭遇を
科学的に考えてみよう

広島平和研究所副所長

水本和実教授

『原子爆弾：その理論と歴史』

山田克哉著 講談社 1996年 【559.7ヤマ】

私たちは、広島・長崎で起きた悲惨な出来事は知っていますが、わずか1兆分の1センチの原子核を破壊する科学技術がそれをもたらしたと言われても、ピンと来ない人も多いでしょう。

この本は、世界の科学者たちが、原子核の研究というレースにおいて、何をどこまで明らかにし、別の研究者に引き継がれたのかを、生身の人間のドラマも交えながら、生き生きと描き出しています。

数式や理論的な記述も出てきますが、何とか食らいついて読んでみてください。「核」という魔物と遭遇してしまった私たちは、今後どう付き合っていくべきなのかという難題について、考えるヒントを与えてくれます。

Civil Society and Democracy

ナラヤナン・ガネサン教授



“Civil society and political change in Asia : expanding and contracting democratic space”

edited by Muthiah Alagappa
Stanford University Press 2004 【312.2AL】

This book examines 12 countries in Asia in order to determine the nature of the relationship between civil society and political change. The focus is on whether civil society actively promotes more inclusion and participation in political life. The findings from the book show that the nature of the relationship between civil society and democracy is complicated and there is no uniform trend. In some countries civil society promotes interaction and participation that is typical of democracies but in other cases, civil society may not help democratic norms, especially if they repressed, are exclusive or become co-opted by the state. The book also shows that strong political institutions and an established party system and rule of law are other important considerations for the promotion of democracy and social capital.



田中利幸教授

『真の文明は人を殺さず：
田中正造の言葉に学ぶ明日の日本』

小松裕著 小学館 2011年 【289.1タ】

田中正造は、明治時代の自由民権運動家、政治家であり、且つ日本最初の公害問題である足尾銅山鉛毒問題を告発した政治家として有名である。本書は、その田中自身が書き残した膨大な文書の中から、環境問題、平和問題に関わる珠玉の文書を選出し簡明に解説している。原発事故や核兵器の脅威にさらされている現在の私たちが、田中の言葉から学ぶべきことはひじょうに多い。

Fighting Against Nuclear
Weapons Around the
World

ロバート・ジェイコブズ准教授



“Confronting the bomb : a short history
of the world nuclear disarmament
movement”

Lawrence S. Wittner
Stanford University Press 2009 【319.8WI】

Professor Lawrence Wittner was the leading historian of anti-nuclear weapon movements around the world. This book is a condensed study taken from his 3 Volume history of the fight for nuclear disarmament from 1945-2009. In this book Wittner presents a very concise history of the fight against nuclear weapons in different times and different places, and shows how this struggle unites people from many places in a common struggle. Wittner shows that both politicians and regular citizens have played important parts in these movements.



先生のおススメ本は、図書館3階トリアスロンコーナーにあります。
【 】内は請求記号です。



河上暁弘講師

『「現実」主義の陥穽』

(丸山真男『現代政治の思想と行動』増補版
所収)

丸山真男著 未来社 1964年 【310.4マル】

戦後日本最大の知識人とも言われた丸山真男は、憲法9条は非現実的という悪罵に対して、そう言う、自称「現実主義者」の態度は、結局、強い者に従うだけの現状追従主義であること、本来、現実是我々が日々創ってゆくもの、変えることもできるものであること等を指摘する。自称「現実主義者」の態度と憲法9条の立場のどちらが真の意味で現実的か、そもそも理想を追求しない立場など本当に選ぶに値するのか？ 今こそ一読を薦めたい。

桐谷多恵子講師

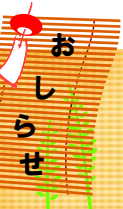


『原民喜』

(日本の原爆文学 1)

「核戦争の危機を訴える文学者の声明」署名
者企画 ほるぷ出版 1983年 【918.6ニホ1】

原民喜は、1944年9月に最愛の妻を病気で失ったあと、翌年1月に千葉から郷里の広島に疎開し、8月6日に生家で被爆した。惨劇の中に生き残った原は、自らの責務として被爆体験を克明に綴り、戦後の飢えと恐怖の中におかれても、新しい人間誕生への心願を書き遺した。本書収録作「長崎の鐘」に、「恐ろしいのは多くの人々がまだ原子力の惨禍をほんとに鋭く感じることが出来ない」という一節があるが、これはまさに現代を生きるわれわれ人類の課題である。



教員によるトークイベント @図書館

広島平和研究所 河上暁弘講師による
「時代を読む-憲法と平和」の
トークイベントを行います。

日時：7/31(水) 12:30-12:50
会場：附属図書館3階
展示コーナー



竹本真希子講師

『ヒロシマになぜ：海外よりのまなざし』

小倉馨著 溪水社 1979年 【319.8カク】

筆者の小倉馨は広島平和記念資料館館長や広島市渉外課長をつとめた人物。堪能な英語を生かし、1950年代から70年代までの広島の国際交流を支えた。本書は小倉がロベルト・ユンクやロバート・リフトン、リチャード・ニクソンなど、広島を訪れた外国人について書いたエッセー。読みやすい文章で、当時の広島の国際交流の様子や外国人が原爆をどう受け止めたか、「ヒロシマ」がどう世界に伝わったかなどがわかる一冊。

「平和研コーナー」の紹介



広島平和研究所の大学キャンパスへの移転に伴い、旧情報資料室の所蔵資料を当館に移管しました。

移管資料の中から、約1,500冊を選書し図書館3階に配架しています。

- * 戦争・平和に関する図書
- * 核に関する図書
- * 東アジアをはじめとする国際関係、諸問題に関する図書

広島平和研究所の主な研究分野を中心とした図書が揃っています。

OPAC 検索結果画面

所蔵情報			
No.	所蔵館	配架場所	請求記号
1	広島市大	平和研コーナー	312.17カ

この夏は、英語で HIROSHIMA を読む！

7月30日(火)～8月8日(木)まで、今年も世界各地から集った受講生が、英語でヒロシマを学ぶ「Hiroshima and Peace」が開催されます。



これにあわせて、図書館では7月中旬から講座終了まで、英語で書かれた広島・長崎の原爆投下に関する図書を展示します。

「英語はちょっと…」という方も大丈夫！日本語版のあるものは一緒に展示しています。中沢啓治さんの「Barefoot Gen」(はだしのゲン) やこうの史代さんの「Town of evening calm, country of cherry blossoms」(夕風の町桜の国)などもありますよ。是非お立ち寄り下さい。

いちだい知のトライアスロン イベント報告

出張講座 @ 広島市映像文化ライブラリー -「昭和枯れすすき」-

6月22日(土)、広島市映像文化ライブラリーとの連携事業で、映画に関する講演と映画「昭和枯れすすき」(野村芳太郎監督 1975年公開)の上映会を開催しました。約80名の皆さんにご参加いただきました。

まず、国際学部の佐藤深雪先生に、「映画を読む～『昭和枯れすすき』の故郷喪失～」という演題で約40分の講演をしていただいた後、映画「昭和枯れすすき」を鑑賞しました。

<参加者の声>

- ・映画のカット割りの中に秘められた監督の意図を汲むということは、講演を聞いて初めて知りました。
- ・青森から東京に出てきた原田兄妹、博多から出てきた吉浦…。それぞれの故郷を捨て、東京にしがみつこうに生きる人々の葛藤が映し出された映画でした。
- ・従順でかわいい妹がだんだんとグレていく姿に対する兄の感情と、東京という異郷の地で感じる”異なるものへの恐怖心”がリンクしているように思いました。

★佐藤先生の講演の映像は、トライアスロンWebサイト(学内限定)で公開されています。

★図書館では、「昭和枯れすすき」を所蔵しています。是非ご覧ください。

映画 「昭和枯れすすき」野村芳太郎監督 【DVD】



出張講座 @ 広島県立美術館



-「尊厳の芸術展」- 予告

日時：2013年7月28日(日) 午後1時30分～

会場：広島県立美術館 地下講堂

内容：講演「米国日系人強制収容所における芸術と工芸」

芸術学部加治屋健司准教授

ギャラリートーク

宮本真希子広島県立美術館学芸員

※事前に申込みが必要です。

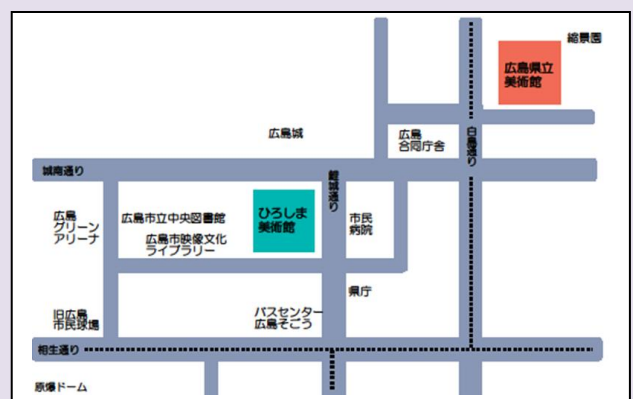
図書館カウンターでお申し込みください。

最新情報はいちだい知のトライアスロンウェブサイト

<http://triathlon.hiroshima-cu.ac.jp/> でご確認ください。

「キャンパスメンバーズ制度」について

ひろしま美術館・広島県立美術館では、入館の際に広島市立大学の学生証または身分証を掲示すると、常設展・特別展を無料で観覧することができます。



平成 24 年度コメント大賞表彰式

4月25日(木)、図書館3階で『いちだい知のトライアスロン 平成24年度コメント大賞表彰式』を開催しました。

受賞したみなさん、おめでとうございます！

表彰式の様子などは「いちだい知のトライアスロン」の Web サイトにも掲載していますので、こちらをご覧ください。

<http://triathlon.hiroshima-cu.ac.jp/>



〈コメント大賞〉国際学部 来田卓哉さん

〈入賞：映画部門〉

国際学部 小西昌也さん

情報科学部 荒槇純裕さん

〈入賞：美術展部門〉

芸術学部 中村春日さん

〈入賞：図書部門〉

国際学部 江口奈津美さん

国際学部 北瀬結香子さん

国際学部 國廣隆行さん

情報科学部 高野瑛菜さん

芸術学部 時任津さん

芸術学部 南谷知子さん

ブックハンティング @ 紀伊國屋書店広島店

5月25日(土)、紀伊國屋書店広島店（アクア広島センター街6階）で『第3回いちだいブックハンティング』を開催しました。



今回の参加者は10名。初めに本を選ぶ基準などの説明を受けた後、バーコードリーダーを手に、自分の欲しい本を探し回っていました。

学生さん達が選んだ本は、準備が整い次第、館内展示コーナーで紹介する予定です。



学生図書館サポーター

今年度の学生図書館サポーターさんです。

左上から芸術学部2年時任さん、国際学部3年村井さん、芸術学部1年望月さん、芸術学部1年白山さんです。

もう1人、芸術学部2年川口さんも昨年度から引き続き参加してくれています。今年度はこの5名で活動していきます。



今後の学生企画展示に期待しましょう！

教員によるトークイベント@図書館

第1回 4/9(火) 昼休憩



「情報医工学プログラム・臨床情報医工学プログラム」の紹介と題して、情報科学研究科福田浩士先生からそのプログラムの内容をわかりやすくお話していただきました。

実習についての説明や、他大学の学生との交流の様子など具体的な話もあり、学生にとっては有益な時間になったのではないのでしょうか。

第2回 6/19(水) 昼休憩

図書館での展示「ページからの旅情」と語学センター開催のイベントに関連して、国際学部飯島典子准教授による『香港アニメ「マクダルとマクマク」から見る香港庶民の文化』の講演をしていただきました。

参加者とのやりとりを交えながら解説をされ、まるで「市大版白熱教室」のような場面も。



第3回は、7/31(水) 平和研 河上先生です！ご期待ください！

わたしの一冊

芸術学部 加治屋 健司 准教授

『現代美術は語る:ニューヨーク・1940-1970』

エミール・ディ・アントニオ、ミッチ・タックマン 著 林道郎訳 青土社 1997年

ウィレム・デ・クーニング、バーネット・ニューマン、ケネス・ノーランド、フランク・ステラ、ロバート・ラウシェンバーグ、ジャスパー・ジョーンズ、アンディ・ウォーホル……。抽象表現主義からカラーフィールド絵画、そしてポップアートまで、アメリカ美術に最も勢いがあつた時代に活躍したアーティストたちのインタビューを書き起こしたのが本書である。

こうしたアーティストは歴史上の人物で、雲の上の存在と思っている人もいるかもしれない。だが、彼らの肉声を伝える本書を読むと、彼らも自分とさほど変わらない存在であることが分かる。彼らも、上の世代のアーティストに対抗意識を抱きつつ、同世代による作品に刺激を受けて、試

行錯誤を繰り返しながら自分の制作を続けている。登場するアーティストの多くは、自分が感じ考えたことを実に率直に語っている。なかには、常に質問をはぐらかすウォーホルのような作家もいる。だが、よく読んでみると、一貫した悪ふざけのなかに、譲れない美意識を感じずにはいられない。アーティストのインタビューは、彼らが何を考えているかだけでなく、それをどのように語ればよいのかということも教えてくれる。

本書には、批評家、キュレーター、ディーラー、コレクターのインタビューも再録されている。美術に関わる多様な人々の多様な考え方や語り口を通して、今の自分の制作を見つめ直すきっかけにしてもらえればと思う。



この本は図書館 3 階にあります。ご利用ください。【図書館 3 階 702.5 デイ】

※【 】内は配架場所と請求記号です。

LOOK HERE!

● 臨時休館のお知らせ

8月15日(木)は省エネルギーのための全学休業に伴い臨時休館することになりました。ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

● 開館時間の変更について

定期試験前後、夏休み中は開館時間が変わります。ご注意ください。詳しくは、Webサイトの図書館カレンダーでご確認ください。



区分	変更となる期間	開館時間
延長開館期間	7月12日(金)～8月2日(金)	8:45～20:00
夏季休業期間	8月7日(水)～9月30日(月)	8:45～17:00

● 夏季休業期間中の特別貸出について

夏季休業に伴い、7月23日(火)から、図書の貸出期間を延長します(雑誌は除く)。

区分	特別貸出期間	返却期限
学部生	7月23日(火)～9月20日(金)	10月8日(火)
大学院生	7月23日(火)～9月6日(金)	10月8日(火)

市大コーナー新着図書

市大コーナーでは、本学の先生や卒業生が出版した本や各学部の紀要などの大学の出版物を紹介しています。

『Japan's 3/11 disaster as seen from Hiroshima : a multidisciplinary approach』 HCU 3/11 Forum 著

編集後記

平和研究所の移転に伴い旧情報資料室の資料も附属図書館へ移管され、「平和研コーナー」ができました。このコーナーには先生方が「学生みんなに読んでほしい」図書を置いています。レポートやプレゼンなどにもどんどん活用してくださいね。そして、その広島平和研究所の先生方がオススメする図書を今回は紹介しています。平和学・国際学の知識を深めてくれる一冊。是非手に取ってみてください。

2013年 7月1日発行

広島市立大学附属図書館

広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

TEL : (082) 830-1508

FAX : (082) 830-1659

E-mail tosho@lib.hiroshima-cu.ac.jp

http://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp